

第5回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日時：平成28年9月27日（火）14時00分～15時00分
場所：岐阜県庁 4階 特別会議室

1 開会

（涌井座長）

- ・これまで4回の会議を重ね、たくさんの有益な意見をいただいている。それらを反映した形で、岐阜県としての基本戦略案について、事務局が資料として取りまとめた。
- ・今回が最後の懇談会である。最終案というかたちで提案しているが、皆さんの意見をいただければと考えている。

2 事務局説明

（都市公園整備局長）

（資料に基づき、各公園の取組みについて説明）

3 意見交換

（涌井座長）

- ・策定する基本戦略について、これから実施計画にステップアップさせていくにあたり、この方向性でいいかどうか検討していきたい。
- ・日本ほど地域の隅々までハードが充実し、多様な観光ソースを持っている国はないが、ハードを利用するための仕組みや情報が個別化されているため、十分活用されていない。情報をつなぐことができれば、日本のインバウンドは伸びるはずである。よって、4つの公園と岐阜の観光回廊というネットワークをつくることが重要である。

（古田委員）

- ・「清流の国ぎふ回廊づくり」に向けた取組みとして、特にステップ3「国内外へ向けた発信」が重要である。また、ステップ3の4つの取組みにおいて、「4公園統一の案内サインの整備、『ミナモ』を活用したシンボルマークの制作」、「多言語ポータルサイトの構築」、「各公園周辺の地域資源の情報を含む公園共通のパンフレットの制作」はハード整備、「観光誘客施策と一体となった国内外へのプロモーションの展開」はソフト整備であり、アクションの厚みが異なる。取組みの中身を充実させてきめ細やかな展開を行うこと、さらに、国内外プロモーションの展開を検討することが重要である。

（若松委員）

- ・課題で実行することはコミュニケーションデザインの問題である。花フェスタ記念公園と平成記念公園のコンセプトと名前が合っていないため、見直しが必要。

（藤井委員）

- ・地元と連携して、ターゲット層の共有や、公園にないものを地元で補完する、公園へのアクセスを地元がしっかりと取り組んでいくことが大きなテーマになってくると思う。どのような層の人たちに対し特に力を入れていくかが明確であると、市としても事業を展開できるかと思っている。
- ・平成記念公園はインパクトが弱い。里山の学びや岐阜県を知ることができる等、核となるコンテンツ

を明確にする必要がある。

(碓井委員)

- ・全体のコンセプトについて、地域資源を有機的に結んでおりとても良い。特に、6つ目の取組み「様々な人々との協働」は、社会を充実させるために必要な事項である。
- ・それぞれの公園のコンセプトは良いが、平成記念公園のコンセプト案では里山や昭和村のイメージが弱いと感じる。今後の作業の中で明確な名称や目玉となるようなコンテンツを考えてほしい。

(足達局長)

- ・基本コンセプトに「みんなで育てます」と入れているが、地域の方々と育てていく、という思いである。
- ・平成記念公園について、里山をテーマとした公園の中に、昭和ゾーンはあっても良いと思う。全体としての進め方を整理する。

(大橋委員)

- ・駅から歩いて2.5キロぐらいで、「日本の滝百選」に選ばれた滝があることは非常に強みでもあるが、養老の滝を見に行きたいが行くことが出来ない高齢者がたくさんいることが問題。
- ・養老公園に何をしに行くのかが明確でない。大きな目玉がないため、例えば養老天命反転地でのアートに関連した取組みなどができると良い。

(涌井座長)

- ・今回の基本戦略は、4つの公園の活性化だけにとどまらず、関ヶ原や県美術館等の周辺施設との連携によって、多面的に化学反応を起こそうとしているユニークな取組みである。

(小島委員)

- ・2020年までの具体的取組みについての進め方が重要である。それぞれの公園と地域が連携し、さらに公園同士が連携することで、お互いの強み弱みを活かすことが出来る。各公園に魅力の種が詰まっており、それらを融合させて新しいストーリーが出来上がる。4つの公園それぞれに物語があるが、最終的には「清流の国ぎふ回廊」というひとつの言葉で結ばれている。
- ・養老改元1300年祭や関ヶ原の活性化に向けて、より多くの具体策を挙げる必要がある。

(竹花委員)

- ・利用者側の立場になって考える。岐阜県に来たという満足感を得てもらうためには公園だけでは足りないはずであり、それぞれの公園が地域のゲートウェイになる必要がある。その際に、県内外問わず周辺施設との競合を意識することと、興味を持った人たちが相手という感覚が大事である。運用面でのオープンな議論と地元との調整を期待したい。

(涌井座長)

- ・共通コンセプトの「みんなで育てる」に趣旨がある。それぞれの公園について、地域住民あるいは地元の基礎自治体で、観光の力と地力に対応した地域づくりなり観光拠点の育成をどのように考えていくかを、実施計画の中で詰めていくべき。

(加藤委員)

- ・「関ヶ原」は誰もが知っている岐阜の地名であり、岐阜の窓口的役割を果たすことが出来ると考えられる。
- ・公園を訪れた際には周辺の施設や産業、食べ物等の要素も体験してもらいたい。

(知事)

- ・本計画に記載している内容をすべて行えば良い、というわけではないことを念頭におく。回廊とは何か、回廊をどうしたいのか、アピール方法、基本戦略のフォローアップ等、今後つき詰めて議論が必要である。
- ・関ヶ原や中山道、清流長良川の鮎など、回廊の考え方の切り口は、まだまだ検討の余地がある。
- ・名称変更について、花フェスタ記念公園・平成記念公園に愛着を持つ人もいるなか、地元の人々の意見も聞きながら、じっくり検討していく。

4 まとめ

(涌井座長)

- ・基本戦略を具体化していくことが今後の課題である。今回いただいた意見については、将来の方向性の中で課題として整理してほしい。
- ・公園内部の充実とその公園を核とした地域づくりについて、意見を集約していくかたちで協議会を進めていただく。さらに、必要があれば、個別に委員の方々にヒアリングし、次のメニューを検討していく。
- ・懇談会としては、このような結論で、幕を閉じさせていただく。